

岩槻を歩こう



岩槻は室町時代後半、岩槻城築城を機に町が形成され、情緒豊かな城下町、そして日光御成道の宿場町として栄え、今日の基礎が築られました。

区内ではこうした面影を、今もさまざまな場所で見ることができます。また、古くからの歴史をうかがうことのできる文化財、遺跡、寺社など見逃せないスポットがたくさんあります。

そこで今回は岩槻の歴史・文化を感じることできる、観光スポットをご紹介します。



◀市民の憩いの場として親しまれている岩槻城址公園のハッ橋。

▼時の鐘は江戸時代から岩槻の人々に時を知らせてきました。



岩槻城址公園

約800本の桜が咲く県内有数の桜の名所です。岩槻城跡に造られ、自然を生かした緑の多い約18万㎡の広大な園内には、今も土塁や城門が残っていて、古くからの歴史を感じることができます。また、4月上旬に桜まつり、4月29日に岩槻流しびな、11月3日に人形供養祭など、各種イベントも多く行われます。

時の鐘

1671年（寛文11年）に当時の城主阿部正春が造らせたもので、高さ約1.8m、外径75cm、厚さ6cmの鐘を吊るす、木造の鐘楼です。

「岩槻にすぎたるものが二つありこだまなん児玉南か柯と時の鐘」とうたわれたこの鐘は、当時から岩槻のシンボルとして知られ、城内・城下の人々に時刻を知らせたものです。

今日でも午前・午後6時には美しい音色を四里四方にいんいんと響かせ、市民に時を知らせています。



慈恩寺

坂東12番観音札所として名高い寺です。本尊は千手観音で、天台宗・華林山最上院といいます。824～834年(天長年間)に開山された際、周囲の風景が「西遊記」で知られる三蔵法師ゆかりの唐の大慈恩寺に似ていたため、寺号としたといわれています。

境内には、十三重の「玄奘三蔵霊骨塔」があり、三蔵法師の霊骨が奉安されています。当時、三蔵法師の霊骨塔は全国でここ1カ所でしたが、のちにここから奈良の薬師寺に分骨されたと伝えられています。毎年5月5日には玄奘祭が催されます。

真福寺貝塚

真福寺貝塚は、縄文時代後・晩期の貝塚と泥灰層を有する大遺跡です。この遺跡では、大正時代から数十回にも及ぶ発掘調査が行われてきました。

1975年(昭和50年)、縄文時代の様子を伝える貴重な遺物が出土する遺跡として国史跡に指定されました。



▲郷土の画家がデザインしたモダンな雰囲気の人形塚。



▶坂東12番札所であり、玄奘三蔵法師の霊骨があることで知られる慈恩寺。

遷喬館 (せんきょうかん)

岩槻藩(大岡氏)の藩校。1799年(寛政11年)児玉南柯こだまなんかが54歳のとき、私塾として創建。のちに大岡忠正に献上され、岩槻藩の藩校となり藩士の子弟の教育が行われました。館舎は裏小路にあって茅葺平屋の建造物は現存し、県指定史跡となっています。埼玉県内に現存する唯一の藩校でもあります。

人形塚

1971年(昭和46年)10月、人形の日と埼玉百年を記念して、岩槻在住の画家関根将雄画伯のデザインを基に男びな・女びなをイメージし、作られたものです。男びな・女びなが仲むつまじく寄りそった姿は、世界の平和と郷土岩槻の限りなき発展を願っています。